

弘法新聞

2019.7.1

NO 97

発行者 篠栗四国第八十五番霊場

加藤丈尚

郷ノ原観音

祖聖大寺

〒811-2405 福岡県糟屋郡篠栗町大字篠栗84

TEL 092-947-6368

FAX 092-947-6717

ホームページ<http://sosyoudaiji.com/>

メールアドレスkanzeon17@yahoo.co.jp

暑中お見舞い申しあげます

今年も折り返し点を過ぎ、暑い夏のはじまりです。

平素より当山の為に色々ご尽力頂き有難うございます。

また、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

被災地（新潟、山形、豪雨被災者など）の方々には心よりお見舞い申し上げます。並びに早期復興と犠牲者のご冥福をお祈り申し上げます。

合掌



— 仏 声 梵 語 —

— 新元号 過ぎし時代や 今何処 —

もう、今年も気がつくと半分を過ぎて月日の経つ早さを痛切に感じています。時の流れは私達の思いと裏腹に進んでいるように感じます。今年は4月末までが平成31年、翌日からは令和元年となりました。

今年は6月に大阪で開催されたG20の会議、米朝協議、イラン核協定、米中の貿易摩擦。年々激しくなる異常気象、国内では年金問題、権力者のモラルの墮落、先月18日の夜、新潟、山形を襲ったマグニチュード6.7の大地震。その他、事故や犯罪等で昭和、平成にかけ積み残した荷物の多さが感じられます。

新元号の「令和」が施行され、「初春の令月にして、気淑く風和らぎ 梅は鏡前の粉を披き 蘭は佩後の香りを照らす」という、万葉集の一文を根拠としている新元号。「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ、育つ」という意味が込められたこの言葉から、令月や梅が長い冬を越えて春の兆しを知らせてくれるように、天災、テロ、不況、社会の乱れで世の中が暗くなりがちだった平成から、新たな時代へ進んでゆこうとする願いを感じます。

今の世は、天災、テロ、不況、あらゆる面での社会の乱れが目につき希望がもてません。が、いつまでもこのような状態が続くという保証もありません。このような現代の状態は、物事が最低最悪の状態から良くなる方向へ進んでいる過程とも思え、決して投げやりにならず、短気を起こさず、目標を定めて進んでゆきたいものです。私達の肉体はやがて土に帰りますが、反対に精神（心、魂）はいつまでも永久に生き続け、私達がプラスの思いでプラス言葉を使えば私達の思いは必ずいつかは叶うとの事。そこに救いはあり、将来の自分の夢を描いて前進する事が幸せの近道。前途には光明に照らされた世界が待っています。

般若心経の最後に“揭諦揭諦 波羅揭諦 波羅僧揭諦 菩提薩婆訶 般若心経”（ぎやていぎやてい はらぎやてい はらそうぎやてい ぼうじそわか はんにやしんぎょう）の箇所がその事の意味です。清々しい心で般若心経をお唱えして、さあ、夢に向かい前進です。

— 南 無 大 師 遍 照 金 剛 — 合掌